

行動する大切さ

先日、友人の車に同乗していて交通事故の現場に出合いました。発生間もない様子で車は横向きに車線をふさいでおり、その横を車が通り抜けていました。車のかたわらに老夫婦と娘さんとお孫さんらしい四人、激しい雨の中に傘もなく立っていました。友人はすこし通り過ぎてから、路肩に停まり傘三本を手にして、私に「車を移動させたい」と言って駆けていきました。

邪魔にならない場所まで車を動かして待ちながら、「自分だったらすぐに行動出来ていただろうか」と自問しました。友人は瞬間的に行動していた。最初に動けなかった自分の至らなさを感じました。

しばらくして、もどった友人は何

事もなかったかのように「おじいさんは動揺していたけれど、警察も、救急車も来たので大丈夫だろう」と言っ、その場をあとにしました。

お年寄りの方に席を譲る。ゴミがあれば拾う。障がいのある方が困っていたら手をさしのべる。人は誰にでも相手を思いやる気持ちは持っていると思います。それを行動に表すことのできる人は少ないのかもしれません。気持ちは相手には見えませんが行動は相手に伝わります。小さなことでも相手を思いやる気持ちは素直に行動できるようにしていきたいと、あらためて反省しました。

株式会社タスキン社長

山村輝治

写真・市谷 健「よっ、いいぞお！」



読者の心に願って
読む人を
幸せに願って
作る

喜びの タネまき 新聞

no.509

「赤いセーターの女の子」

人や自然と出会って、気持ちがある時ぱつと開くときを、絵と文でかいてみたいと思います。「回目」は僕がまだ若い頃のある日の出会い。誰にもあるかもしれない、小さくていとあしい大事な思い出のひとつです。

のどかな初秋の山麓で出会った女の子の話をしよう。それは西上州の叶山^{かふたえ}へ行く日。バスの乗り継ぎで一時間も待つことになり、僕はひとりりで秋空に向かってあくびをしていた。



絵と文 中村みつを



イラストレーター、画家。絵と文の作品は自然・旅・人がテーマで、心の和む温かさ。読売新聞夕刊のみなみらんぼうのエッセイ「一歩二歩山歩」に挿絵を描き、新聞連載最多記録14年目。日本山岳会会員。著書に「のんびり山に帰るはのぼる」(山と溪谷社)、「お江戸超低山さんぽ」(書肆侃侃房)、「森のくらし」(リヨン社)など。

「こんにちは」待合所に入ってきたのは赤いセーターを着た女の子だった。驚いた僕は、「バスを待つてるの?」と問の抜けた質問。「はい、これから秩父の街へ行くんです」彼女は一瞬、ふき出しそんな笑顔を見せた。「そうだよ。ここはバス停なんだから」僕が言うと、声を出しておかしそうに笑った。こうして笑いあったために、ぎこちなさが取れて、気持ちに隔てがなくなった。

彼女は高校1年生、僕は3年。彼女は街へ、僕は山へ、バスは反対方向だ。爽やかな風に吹かれてバスを待ちながら、彼女はこれから行く街の話、僕は山の話がつきない。当時は岩登りに夢中で、大きな岩の割れ目を登るバック・アンド・フォワードという方法の話になった。「どうやってするの?」と聞かれて、ついつい乗って、やって見せたのだ。

手足を交互に突っ張る身振りは、落ちる危険のない待合所の中で、自分でも底抜けに面白くできた。ふたりだけのトークショーは大受けて、彼女はよく笑った。楽しかった分、バスの時間が近づくにつれ、会話が減った。

僕に乗るバスが先に来た。ステップに足をかけながら「秩父の街行きのバスなら、一緒に乗っちゃおうのに」と僕は言い、「せつかくお友だちになれたのに」と彼女は返した。いちばん後ろの席に座ると、バスはゆっくり動き出した。手を振ってくれた赤いセーターの女の子に「また会えるといいな」とバスの中でつぶやいて、僕も手を振った。

昔のオンボロバスは、山間をぬうように、うなりながら走った。ひとり歩きの山は楽しみに満ちているのに、僕は初めて細い山道を寂しいと感じた。

ついつい、もう1本「スパイシー・スティック」

手軽でいろいろ工夫できる春巻ききの皮。今回は、煮詰めたリンゴと甘栗入りクリームチーズの2種類を、クルクル巻いて焼き上げたお菓子。スティックタイプで食べやすく、スパイスが効いた、くせになる美味しさです。



お料理研究家 こいけりえ

◎作り方(10本分)

●下準備

煮リンゴ
リンゴ1個は皮をむいてくし切りにし、さらにいちょう型にスライスしておく。

厚手の鍋に切ったリンゴ、バター10g、砂糖40g、レモンの絞り汁小さじ2を入れて中火にかける。

鍋の中のリンゴがグツグツと煮えて、バターと砂糖が溶けてきたら弱火にし、時々混ぜながら、色が変わって煮汁がほとんどなくなるまで煮る。火からおろし、あら熱がとれたらシナモンシュガー少々を振りかけて混ぜ合わせしておく。

●甘栗入りクリームチーズ

市販のむき甘栗5〜6粒を細かく刻んでおく。室温に戻しておいたクリームチーズ100gに刻んだ甘栗を入れて、ゴムベラでよく混ぜ合わせ、甘栗が全体に行き渡ったら、オールスパイス少々をふりかけ、さらに混ぜ合わせる。

●春巻ききの皮で巻く

出来上がった煮リンゴと甘栗入りクリームチーズは、それぞれ5等分にしておく。小麦粉大さじ1に水大さじ1を入れて、



軽く混ぜ合わせ、春巻ききの皮をとめるつなぎを作っておく。春巻ききの皮10枚はミニサイズを使用。普通サイズの場合は、半分に切って使用する。

5等分にした煮リンゴと甘栗クリームは春巻ききの皮の下の方に長く伸ばしてのせる。そのままクルクルと細く巻き上げて、端を水溶き小麦粉を塗ってとめておく。

●焼き上げる

大きめのフライパンに油大さじ2を入れて、少し温まったところへ巻いたスティックを並べて入れる。両面がこんがりとし焼き色が付いたら取り出し、油を切る。

●仕上げ

アップルスティックにはシナモンシュガー、甘栗クリームチーズには砂糖をそれぞれ少々ふりかけて完成です。クリームチーズは粉糖をかげずに、おつまみにもおすすめです。



おやつ時間

簡単、美味しい楽ラクレシピ



●仕上げ

アップルスティックにはシナモンシュガー、甘栗クリームチーズには砂糖をそれぞれ少々ふりかけて完成です。クリームチーズは粉糖をかげずに、おつまみにもおすすめです。

みてもらおう！



「風に乗って〜」
横浜市 堀竹美也子



ちょっとひと思
ついでるんだよ。
三重県桑名市 溝口久美



「ほら、あ〜ん。」
長野県岡谷市 宮下宇子

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしております！
(詳細は7ページ)

住みながら考えている
楽しんで実験している

札幌を見渡せる幌見峠。峠に建つ工房の主は細身でも強靱な腕と、器用な手をもつ33歳の男だ。工房と言っても外見は普通で、とりたててオシャレではない。でも、中へ入ると2階の床を一部ドーンと取り払った吹き抜けから光が射し込む。明るい部屋でコーヒーをいれながら、栗野さんは説明してくれた。

施主さんと話しながら
一緒に泊まってつくる

栗野さんは十勝の設計事務所働いた縁で、3時間走って、十勝の古い小屋を再生もする。「テント張って。泊まり込んで分かることが多いんです」図面を引いて立体模型作っての建築家でなく、身体が丈夫で手先が器用だから、職人も大工も全部やりたいという。自分の家で試した知恵を役立て、施主さんの意見を聞き、その



空間デザイン「ホロミン」主宰

栗野琢さん

「薪も自分で割っています。大雪で倒れた木をもらって、2年位乾燥させて使います」

合わせる住まい方

の
ホロミン
見口
幌赤

土地に学んで四季に

「吹き抜けの天井のへりに沿って、薪ストーブの煙突をまわしたら、ススも出るし熱効率がよくなかったんです」それで煙突は2階を通り越して天井近くまで伸びるように変えた。

ワールドなんだけれど、細部がやさしい家。もともとは家主のおばあさんが住んでいた。相談したら手を加えて良いというので、傷んでいた壁と床をはがして張り替えた。断熱・遮熱はお手のもの。もともと玄関だった所は採光のよい窓にし、お風呂の位置を家の逆側に変え…いいなあ、何でも自分で直せて。

けれど、煙突もそうだが、住みながらこれで良かったかどうか、常に考える。峠は雪が降る。「ここらは切妻の屋根で妻入りの玄関。屋根がかぶさらない今の位置は雪が落ちる」。建築家として、落ち葉とか雪のたまり具合を見ながら考える。自分の家で実験しているのだ。模様替えではない。構造や機能を変えて家を育てているようなものかもしれない。



薪を太いまま放り込める大きなストーブ。まっすぐな煙突なのでススが出ない。



北海道といえば、寒い冬と爆発的に来る春、豊かな秋。自然が厳しいから、夏涼しく冬温かい住まいの知恵がある。土地に学び、施主と一緒に、泊まり込みスタイルで家を作るユニークな建築家をお訪ねした。

気持ちに添う。「土に還る素材を使いたいという希望で」再利用の建材を壁面にデザインし、床の断熱に古セーターを敷き詰め、畳を壁に入れた。「もちろん防虫や北海道の気候も考えてですけど」施主、職人も一緒に大勢で賑やかに造ったそうだ。



小屋の床下にこんなに綺麗な色とりどりのセーターが！衣類の再利用も出来てエコ！

の人が一緒になって協力して家を建てたんです」だから、自分を呼んでくれる人がいたら、ぱつと行つて泊まって、語り合いながら家をつくりたい。「夢は、建築を通して旅をすること」そう言いながら2階の窓を開けたら風が吹き抜けていった。そこは豊かな緑の峠である。

1階の窓はもともと玄関だった。窓は全て二重だ。テーブルや棚は自分で作った。壁はこれから珪藻土を塗る予定。





パソコン

名古屋市 平井雅子

七十の手習いでパソコンを始めた。ところが、サビついた頭に次々と難題がのしかかる。三歩進んで二歩後退のペースである。しかし最強の助け舟がある。近所に住む孫達である。すぐに助けてと言うのも悔しいので、どうにもならなくなった時だけ頼むことにしている。

ある日「時々教えてもらおうから、何かお礼をしようかな。何がいい？」と孫に聞くと、すかさず「キャッシュユー」。息子からは甘やかさないようにと言われているので、「お金はおばあちゃんだつて欲しい。お小遣いたまっていたら、少しくれないかなあ...」。すると高一の孫は、「僕は高校生だから、おばあちゃんにあげられるのは思い出と癒しだけだよ」

これには参った。誕生日にプラスαのお祝いをあげようかな。ちよつと幸せだった秋の日。

— 電腦おばあちゃん。



母

大阪市 一の宮千賀子

去年の3月、母が89歳で逝きました。私は9人兄弟の末っ子で、忙しい母にかまってもらえませんでした。それでも可愛がられていたんだなあ、よく懐かしく思い出します。

「9番目はいらん子やる」小さな頃、すねてふてくされる私に母は決まって、

「1番いる子や」と返してくれました。

夏祭りや秋祭りで着る服、冬のセーターも母の手作りでした。器用な人で、サツと作ってくれたのを覚えています。母は深い愛情をもっていました。私にとって、母はなんでも分かってくれる分身のようなひとでした。今でも、思い出すと涙がこぼれてしまいます。

今年で私も56歳。今も、母は心の中に生き続け、私を見守ってくれています。私の大好きなお母さん。感謝しています。ありがとう。

— 9人ーにぎやかで、母さんたいへんー



大好き

福岡県うきは市 佐々木敦子

3歳半の息子は、たくましくも憎たらしく日に成長。生まれた時は36109gでした。

しかし誕生の喜びも束の間で、その夜に救急搬送され、11日間の入院。産婦人科から連れていかれる時の、苦しそうな顔は忘れられません。

泣いて過ごした産後の5日間。無事退院した時は、なにも望まないから、ただ健康に育つてと願っていたのに、いつの間にか叱ってばかり。

母子手帳を見返すと、当時の私の気持ちが続られていて、今の自分を反省します。先日も夕食中の行儀の悪さを叱り、息子は大泣き。

「そんなに泣いて誰が悪いの！怒られて食べても、おいしくないでしょー」と言うと、

「おいしく、うえーん」とぐしゃぐしゃに泣いた顔で、唐揚げを指さしながら言うので、思わず笑ってしまいました。11カ月の妹にも優しいお兄ちゃんなんだよね。いつも叱ってばかりだけど、大好きだーと、母は思うのです。

— 母は、好きだから、かえって叱るんです。



フリーマーケット

秋田市 佐藤亜紀

先日、友人と一緒にフリーマーケットに初挑戦。小2の長男から3歳になる友人の子供まで、合わせて5人の子供達も張り切って手伝ってくれました。子供達は、「このおもちゃは前に出した方が売れるかも」といいアドバイス。

ヨチヨチ歩きの子がいて物を見られない方がいると、その子の手を取り「いっしょに遊ぶ？」と気遣い、商品に出していた自分達のぬいぐるみやタイコ、磁石などで面倒を見てくれたことには驚きました。

家ではわがままやケンカばかり。けれど、子供なりにちゃんと状況を理解して、大変そうだと感じれば助けてくれます。成長しているんだなど、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

— 5人の売り子さん、たのしいです。



おちつこつや

山口県宇部市 松井光世

離れて暮らす娘一家が、車で15分の所に引っ越してきました。我が家は幼稚園と娘の家の中間にあるので、よく顔を見せてくれます。

まだ、おしっこもウンチも満足に言えない頃、「うって、お母ちゃんに報告する」「...」

もう一人の娘は孫にとってはおばちゃんですが、電話中、台所にいた私のところに受話器を持ってきて、「おばちゃんがかわつてつて」「誰にかわるん？」「あんたに」「...」

ついには、玄関で大人がワアワア言ったら、「おちつこつや。みんな」どつと大笑いでした。

楽しい毎日です。孫は来てよし、帰ってよし。でも毎日お勤弁して下さい。体がもちません。

— 笑ひすぎて、お腹がくたびれるの。



ありがとう

鳥取県米子市 藤谷佐恵

結婚して1年目に女の子を産みました。小さいながらも一人前に伸びをしたり、おならをしたり、アー、ウーと話をしたり...。泣き騒いでいる時は、正直大変ですが、よく眠っていると今度はちゃんと息をしているか不安で、顔を近づけてみたりしています。子育てで毎日振り回されています。

両親にとつても初孫で、特に私の母親はテキパキと赤ちゃんと奮闘してくれています。赤ちゃんと接する姿、見守る横顔を見て、私もこんなに愛情をもらっていたんだ、一生懸命育ててもらったんだと感謝の気持ちがあふれました。当時言えなかった分を今、「ありがとう」と伝えていきます。我が子を通して。

— アーウー語ありがとう。

「おばけナスだぞお！」



千葉県旭市 小川美津子

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンのお店名をお忘れなく。紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先
〒163-0223 東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
電話 03(5909)6703
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

無料 おそうじ相談 実施中!
ダスキンコールセンター 平日の9:00~17:00 0120-100-100
No.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます
http://www.duskin.co.jp/torikumi/tanemaki/index.html

●2ページの中村みつさんのアトリエ 〒167-0022 東京都杉並区下井草5-12-10-109
●4-5ページの「ホロミン」栗野塚さんの連絡先 〒064-0945 北海道札幌市中央区盤渓471-104 電話: 011-807-5483 http://holomin.com/index.html

あなたのお便りや写真をお寄せください

燈々無尽

人間づくりの商いを。どんな良い品があつても、これ売ろうとする意欲がなければ売れない。またどんなに売れる気があつても、その「しくみ」が良くなければ、品物がお客さまには届かない。そして、一番大事なことは、これが「生きがいの探究」であり、「人間づくりだ」と自覚する人だ。心で商いをしよう。心と心でつながる組織をつくろう。

鈴木清一

チャレンジ!
～あの瞬間を今に～
★'89～'90 アメリカ合衆国
第9期海外研修派遣生 東海大学教授/一級建築士
川内美彦さん (肢体不自由)

ユニバーサル・デザインの第一人者ロン・メイス氏と

vol.4

バリアのある建物に罰則を課す法律が定められていたカリフォルニア州では、電車やバスに自由に乗り、好きな店に入れるなど障害者の権利が守られていました。当時の日本では考えられない環境。帰国後「使い手のニーズを大切にしまちづくりを」と法律制定への働きかけやガイドライン作りに携わりました。万人に使いやすいユニバーサル・デザインの普及に努めています。

このコーナーについては 広げよう愛の輪運動基金まで。
☎06-6821-5270 HP (http://www.ainowa.jp/)

今年30周年を迎える愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障害のある若者に、福祉先進国での研修支援を行っています。

**独自の活性炭フィルターで
油をくりかえし使い廃油を削減**

家庭用商品の天ぷら油ろ過器「油っこりん ナイス」は、独自の粉状活性炭フィルターで、揚げ物のあとの油のニオイや汚れをきれいに除去。油をくりかえし使うことができるので、家庭から出る廃油を削減できます。環境にやさしいエコマーク取得商品です。

油をきれいに
してくれる
ろ過器なの

詳しくはwebで
「ダスキンのエコ」
を検索してネ。

ナイスは、
スグレモノ

とおいまーま

粉状活性炭 フィルター

(ダスキン環境シンボルマーク)

エコタネ
身近に、未来に、エコのタネまき。

サクサク

ダスキンのお客様係募集中!!

詳しくはwebで

お客様係

検索

※お仕事内容や募集要項をご覧ください。



携帯からも
アクセス

お楽しみクイズ

油をきれいにする
ろ過器は？

油っこりん



正解者の中から30名様に
「くらしキレイBOX」を
プレゼント!



下記の要領でご応募ください。

◆ハガキに

- ①クイズの答え②郵便番号③住所④氏名⑤年齢⑥性別
- ⑦電話番号⑧現在ご利用のダスキンの店名をご記入の上、下記あて先までお送りください。

◆あて先

〒163-0265
(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞no.509」
クイズプレゼント係

郵便番号は
お間違いなく!

※お楽しみクイズ専用の住所不要のあて先です。

- ◆締め切り 平成23年10月28日(金)当日消印有効
- ◆ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。
- ◆当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
(平成23年11月中旬お届け予定)
- ◆応募に関してのお問い合わせ TEL:03-5909-6703

※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。

今回ご応募いただいた個人情報については、(株)ダスキンの範囲内でのみ利用させていただきます。プレゼントの抽選・発送の目的以外には使用いたしません。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係 TEL:03-5909-6703 までご連絡ください。

no.507のクイズの答えは「(培養)土」でした。

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行：広報・広告部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集：「喜びのタネまき新聞」編集室

〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)

TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客様の個人情報の取り扱いについて】

お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただきます場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループ企業と加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。

個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.jp